

第1回「特別支援学級運営充実推進委員会」会議録

	<p>(2) 各種取組の更なる充実に向けて</p> <p>①教員の専門性向上に関する取組</p>
委員長	<p>今スライドを使って説明して下さった分と最初に総合教育センターが説明した2枚のプリントについてお願いします。スライドの下には事務局の方から皆さんに議論していただきたいことが書かれています。それをヒントにしてください。それをヒントにしてください。それでもいいので、ご意見とか質問、感想なども含めて言っていただけたらありがたいです。</p> <p>委員の皆さん、どうでしょうか。</p>
委員	<p>研修では、皆さんが熱心に聞いてくださったので、話してよかったという実感がありました。</p> <p>ただ、子供に関しての感じ方は、後ろ向きな感じ方や否定的な感じ方の保護者なら違う感じになると思います。子供を導いていくタイプの保護者、ただただ困っているが、どうにかしたいと思い、スキルはないがアドバイスを受けたらしようとする保護者、子供が困っていても気が付かなかったり、放置したりしている無関心な保護者という3つのタイプがあると思います。無関心な保護者はどうするのか、ただただ困っている保護者を見つけるのはどうするのか、というような、</p>

	<p>もっとバラエティにとんだ内容でお伝えできたらよかったのかなと反省点として持っています。</p> <p>委員長 今、我々では気づかないようなポイントを教えていただきました。お話を伺って「なるほど」と思いました。</p> <p> 他の委員さん、どうでしょうか。</p> <p>委員 私も自分の娘が小学校・中学校と地元の支援学級に通ったからこそ得たことや、今に至るようなことを、前向きな意見として話をさせていただきました。最後に教職員の方々が感想を書いてくださっていて、たくさんの方が「保護者の生の声を聴いて勉強になってよかった」ということを書いてくださっていました。それを読んで涙が出ました。</p> <p> もうひとつ、私は娘が学校に通っているときは、先生と話し合いをする場を何回も設けていただいていたので、保護者の生の声をなかなか聴くことがないという先生がいることにびっくりしました。娘を預けるには、先生とは何回も話し合いをしなければ、伝わらない部分もあると思っていたので、その時間を大事にしました。ですから、そこは少しびっくりしたのと、そこも前向きな保護者との違いかなと思いました。今回、新任の先生方に話をさせていただきましたが、娘を育てていて、交流学級の大切さをすごく感じているので、できれば教職員の皆さんに、この委員会を通して知っていただきたいことがたくさんあります。管理職</p>
--	---

	<p>の方が、特別支援学級の担任をどの先生にあてるのかを考えるときに参考になることもたくさんあると思うので、全教職員の先生方に勉強していてもらいたいと感じております。</p>
委員長	<p>私も、委員さんの話を聞いて、「保護者の本当の気持ちを初めて聞いた」という先生方の感想に少しショックを受けました。教員なら毎日保護者と話をしているだろうと思うところがありますが、それができていないのですね。もしかしたら子供の不適切な行動も、保護者の方のお話をしっかりと聞いていたら、起こってなかったのではないかと思うことがあります。そのあたりについて、学校の先生方どうですか。</p>
委員	<p>確かに保護者のタイプはいろいろあって、困っていても学校にお任せというタイプの保護者が大半であるといった印象があります。学校は、保護者を支援するという視点も大事になってきていると感じています。市町村においても、保護者支援という研修をしてくれたりして、子供だけではなく、子供の後ろにいる保護者も一緒に支援するということが必要になってきているのではないかと思います。前回の会で、学校の中だけで解決しがちだという話をいただいてから、学校の先生方に、「家でしていることをどんどん聞きましょう。」「家で声掛けや手立てを、保護者にどんどん聞いていくことが大事です。」と伝えています。保護者も先生に聞かれると答えてくれるというところもありますので、学校側が保護者</p>

	<p>に歩み寄りというのをこれからもしていこうと思っています。</p>
委員長	<p>先生の方から歩み寄っていくということですね。学校にお任せという保護者さんもいるので先生が待っているだけでは情報交換もできないということになります。</p> <p>他の委員さん、どうですか。</p>
委員	<p>何となくですが、保護者とお話するときは、教員はトラブルがあったときや面談など、限られた時間に話をすることが学校のやり方だと思います。自分の経験的には、それだけでは足りないと感じるので、私は困ったことは、すぐに保護者に聞いています。学校でも家でも困っていることがあれば、話をして、どうやってすり合わせていくかを話し合っていけば、うまくいかないことはなかったと思います。</p> <p>教員にもタイプがあるので、学校で何かなければ話をしないという先生もいますが、特に特別支援学級の担任の先生は保護者と連携したほうがいいと思っています。担任者研修会で、そう感じた先生方も多いと思うので、一緒に働いている先生にも伝えていきたいと思っています。</p>
委員	<p>特別支援学級を担当して3、4年になるのですが、保護者の思いを聞くことはあまりなかったので、保護者の思いを聞く機会があればどんどん参加していきたい</p>

	<p>いと思っています。保護者の方も本当にいろいろなタイプがありますが、会って話したり、電話をしたりするということが大事であると思っていますが、保護者も忙しくて、学期一回の面談もままならないこともあります。そんな時に、どうやって、連携して進めていったらいいのか悩むこともあります。学期に一回の懇談では、個別の教育支援計画や個別の指導計画と一緒に考えていくのですが、私の反省として、これまで形式的なやり取りになっていたのではないかと、今回委員をしたことで、自分を振り返りました。その中で、ご家庭でうまくいっている手立てを聞き出したり、保護者の意見を反映した個別の教育支援計画になるように、もっとやり取りが必要なのではないかと思いました。</p> <p>どんな時に話す機会があったか、教えていただきたいのですが、どうされてきましたか。</p> <p>連絡ノートに書かれている内容を見て、電話をした方がいいと思った時や、気になることが続いた時は早め早めに先生と話すことにしていたので、連絡ノートがヒントになっていました。また、お迎えの時など、なるべく先生と顔を合わせて、一言二言、話すことで信頼関係ができてきていました。</p> <p>研修を受けてくださった先生方の感想において、「娘さんが18歳になった時点の話聞くことができたこともよかった」とか、「先を見据えた支援が大切ということがわかった」というご意見もたくさんあったので、よかったと思っています。</p>
--	--

委員長	<p>保護者と教員の立場から話をさせていただきましたが、保護者との連携が大切だということはわかっているのですが、なかなかそういう機会がない。待っているだけでは、連携は図れません。大切だと思いつつも、うまくできていないので、うまくできているケースを参考にしながら教員同士が情報交換をしていくことが必要だと思います。</p> <p>教員は「うまくいっている人から学びたい」、「現場のうまくいっているケースから学びたい」という気持ちを持っているので、どんな方法があるか後半でまた考えたいと思います。</p> <p>他に意見はありますか。</p>
委員	<p>「あどばいすタイム」、「e-ラーニング」について、何かと比較するわけではありませんが、非常に多くの人々が参加しアクセスしているという印象を持ちます。また、開催したあとの情報共有が大切なのではないかと感じたりします。コロナによってオンラインを活用することが広まりましたが、一つの手法として、オンデマンドで配信していくということも、そのとき都合がつかなかった先生も後で聞けるということで、情報共有できる機会が増えるのではないかと感じました。せっかくのいい取組を、できるだけ多くの人にとという視点でそう感じます。</p> <p>先ほどの保護者の方との関わりというところで、福祉の世界にも同じことがよくあります。保護者にもいろいろなタイプの方がいらっしゃいます。福祉の世界では、入所の方と通所の方とでは温度差があり、一概には言えませんが、通所の</p>

保護者の方が温度としては高く感じます。というのも、通所の方は、日中の通所の時間帯以外は家庭にいらっしゃいます。つまり、自分たちもその一人のお子さんを背負っているということがあって、いろいろな思いがあります。福祉施設の職員からすれば、通所の施設の職員の方が大変なのです。保護者の方に思いがありますから、施設に対してのニーズが増えてくるわけです。そんな時に、やはり職員にはしっかりと対応して、かわさないということを話しています。しっかりと知識を持って、説明を求める保護者には自分たちもそれに答えるだけの専門性を持って、対応してくださいと話しています。また、ほったらかしの保護者はパワーペアレントになりがちで、いろいろ困ることもありますが、常に正面から受け止めて引かないこと、そのためには、普段しっかりとした支援ができているということを言えることが大切であるという話をよくしています。今までの話を聞いて、思い返して勉強したところです。

委員長

スライドの3番目のなかに「現場のニーズに応じたオンライン研修の内容・方法は？」とありましたが、「オンデマンド」という方法について事務局どうですか。

事務局

放課後にいろいろな校務と重なって参加できないという声を多数いただいています。今後、県としても「オンデマンド配信」について検討していこうと考えています。

委員	<p>放課後の時間帯にオンデマンドやオンラインの研修をしてくださるということは、大変ありがたく感謝しています。毎回40名程度という参加人数については、もう少し多くてもいいのではないかと思います。教員の忙しさもあるでしょうが、もう一方では、教員の資質向上への意欲が高い人と低い人の差が大きいのではないかと思います。全員に対して「研修しなさい」とは、なかなか言えない状況もあります。学校として、こういう研修の機会をどう生かしていくかということが、学校経営上の課題だと思います。「全員が必ず研修しなさい」とは言えないことから、他の委員さんからお話があったように、学校が、特別支援学級の担任にどういった教員をもっていくかということを考えていってもらうことにもつながるのではないかと思います。</p>
委員	<p>現場の先生のことをよくわかってくださっている委員さんがいてくださることを、ありがたいと思っています。実際に推進月間のe-ラーニングを受けましたが、何年か特別支援学級の担任をしているので簡単だと思っていたら意外と難しく、勉強になりました。特別支援学級の担任ではない先生も勉強になったと言っていました。</p> <p>問題が大変よかったということをお伝えしたかったのと、もう一つは正直なところ、忙しい時期ですごくストレスだと感じました。自己研修、自己研鑽をしたいと思うためには、余裕がないとできません。この期間を設けないと誰もやらないのですが、そこのバランスが難しいと感じます。今日のスライドでひとつ気</p>

	<p>になったのが『好きな時間に好きな場所で』は違うと思いました。</p> <p>チラシを作ってくださいたり、「あどばいすタイム」も設けてくださったりとありがたいのですが、徳島のホームページが探しにくいです。総教センターのホームページが充実しているとお聞きしたが、とてもわかりにくいです。「あどばいすタイム」の資料もあるとお聞きしましたが、パスワードがわからない。そこまで辿り着くのがめんどくさくてやめてしまう人もいます。検索しても徳島のホームページは出てきません。良くしてもらいたいと思ってお伝えするのですが、他県のホームページはわかりやすく、フォームまであります。徳島の場合、現場の教員はすぐに作らなくてはいけないという状況があるのに、ハンドブックがPDFで載っていたりして入力できません。また、どういうふう書けばいいのかよくわかりません。現場の教員は忙しくて、そこまで読む余裕もありませんし、たくさんの資料があるのにそこにアクセスしにくいです。ニーズに合うところにパッとアクセスできたらいいと思います。</p>
事務局	<p>貴重な意見をありがとうございます。アクセスしにくい、わかりにくいというご意見をいただいたので、「見やすい」、「使いたい・使える」というホームページにしていきたいと思います。ありがとうございました。</p>
委員長	<p>委員からのご意見のように、現場の先生は本当に忙しいです。その状況の中で、目の前の子供の支援に困っていて、藁にもすがりたい思いで総合教育センターにアク</p>

委員	<p>セスしたのだが、どこを見たら良いのかわかりにくく、ややこしいので断念しているということですので、事務局さん、よろしくお願いします。これは重要な指摘だと思います。来年の1月の委員会までには対応して、きちんと報告していただきたいと思います。</p> <p>他にご意見はありますか？</p> <p>新しい取組をしていただいて、検討委員会自体の成果が出ていると思います。気づいたことは、専門性の向上というところで、当事者の方にも研修の講師に招くということも必要なのではないかと思います。学校の中、家庭の中で揺れている感情を持っていたり、場合によったら、保護者の思いと、本人の思いは違っていたりすることもありますので、本人視点からの学びも大事だと思いますので、そういった機会を持っていただきたいと思いました。</p> <p>福祉の現場でも、卒業していくと、意思決定支援ということで、とにかく本人の思いを大事にしよう、また、それを引き出そうということで、本人の思いを一番に考えて計画を作っていくという視点が大事になってきています。教育の現場でもそういう部分を引き出していただいて、また場合によったら、教育の計画の中で汎用していただくという視点を持っていただけたらと感じました。</p> <p>それと、3ページの「あどばいすタイム」ですが、福祉とか労働とか制度的なところで新しい言葉が入ってきても、わかりにくいと思います。家族とのやり取りの中でも一つ一つの名称や内容を事前に知っていたらコミュニケーションも取り</p>
----	---

	<p>やすいと思いますので、そういった研修の機会も取り入れたら有効かなと感じました。</p>
委員長	<p>新しい視点ですね。ありがとうございます。</p> <p>スライドの5、6などで、鳴門教育大学との連携もスタートしていますが、関わって下さっております委員さん、どうですか。</p>
委員	<p>今までの議論の中からですが、専門性という部分においてコンサルテーションで行っているのは、個別の支援というか、一人一人のニーズに応じたアセスメントだったりとか、それに対する行動コンサルテーションだったりするので、これだけで特別支援学級の教員の専門性の向上のすべてについて語れると思っはいいないのですが、その一部をコンサルテーションでさせてもらっています。また、校内体制という次の話題に入るところをさせてもらっています。今モデル校と協力して進めているところですが、一番の課題はこれをどのように共有していくか、地域に定着していくかということが、すごく大切だと思っています。また、個別の支援と学級経営のバランスをどのように取っていくかを、この会で話をしていかなければいけないのかなと思います。</p> <p>特別支援学級というのは、個々への支援だけをしているのではなくて、学級としてどのように運営していくかということも重要だと思うのですが、この会の中では、個別の支援の話はよく出てきていますが、学級経営としてはどうしていく</p>

かという視点が薄めだと思うので、これからその話もしなければいいのかなと
思っています。

保護者との連携の話のところでは、文書や文面だけで保護者に何かを伝えると
きに、言葉のチョイスが大切だと感じます。この言葉が保護者にどう響くかとい
うことを考えながら、連絡帳を書くことも大事なので、そういうところも研修で
きたらいいのではないかと思います。

また、ホームページの話では、コンテンツは充実すればするほどわかりにくく
なるので、そういった矛盾を避けられないところはあると思います。方法として
は、初期に立ち返ってメールマガジンを配信するとか、LINE で情報を配信する
か、先生方が探すだけでなく、登録した人に情報を発信するという方法もよい
のではないかと思います。情報を切り取って発信するということは、ホームペ
ージを改編することより簡単にできるし、メールマガジンなどという手法は少な
くなってきていましたが、情報が増えた今だからこそまた有効かなと思います。
コンテンツが増えるということはそういうことかなと思いますので、欲しい人に
欲しい情報を発信するというのも考えてもよいのではないかと思います。

委員長

言葉の使い方は本当に大切です。一言一言がどう伝わるかは本当に大切です。

②校内支援体制の充実に関する取組について

委員長

このことについて、ご意見よろしくをお願いします。

委員

スライドの6ページのことですが、本校は委員会活動で、P B Sに取り組んでいます。学校のため、誰かのために活動をするということを実践しているのですが、委員会活動のメンバーには、特別支援学級に在籍している児童もいて、一緒に活動しています。勉強とは違う場で、誰かのためにがんばれるということ、あいさつ運動などを通常の学級、特別支援学級にかかわらず助け合っていると思います。研修などで他の学校から、P B Sでは具体的にどんなことをしているのかということをよく聞かれます。具体的にお話すると、取り組むことができるのですが、やりたいと思っても浸透していないところがあってP B Sをどう伝えていくのがこれからの課題だと思っています。また、何年か前は実践していたが今はしていないとか、担当者が代わったり、管理職の方の意識が違ったりするなど、その年によってP B Sをしたりしなかったりすることがあることを聞いています。

このような状況がありますので、管理職研修などでP B Sの研修をしていると思いますが、管理職の方への意識の高め方を考えていただきたいと思います。

二つ目は校内支援委員会「プチ」のことですが、毎月開催していて、子供たちの

	<p>ことがよくわかると新しく来た先生にも好評です。こういう場を持っていると、特別支援学級の先生が受けてきた研修を他の先生と共有できるので、教員の専門性の向上という点から、多くの学校で取り組んでいただけたらいいなと思っています。</p>
<p>委員長</p>	<p>管理職の考えひとつで学校が右に行ったり左に行ったりすることがあります が、管理職の研修について、事務局から何かありますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>PBSについて、管理職によって取組が異なるということがあるとのことです が、学校運営にPBSを生かしつつ、子供を中心に据え、教員が子供の伴走者となれるよう改めて研修を見直し、充実を図っていきたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>取り組みたいけれども取り組めない学校があるという話がありましたが、子供を目の前にして、「どうにかしたいという思いがあっても、どうしたらよいかわからない」という悩みがあります。「指導法は世の中にたくさんあって、その完成形は見せてくれているのだが、どこから階段を上っていったらよいかというフローチャートがない」、「コンサルの機会がない学校や先生は、あきらめてしまう」など、それが現場の実態に近いのではないかと思います。完成形を示すことも必要ですが、現場の実態と完成形との距離があるので、それを埋めていく方法を示すことが必要だと思います。こんな時に、掲示板などで情報交換ができればよいの</p>

	<p>ではないかと思います。</p> <p>委員 誰かの役に立つという話がありましたが、知的障がい児の場合には、人の役に立ってよかったなという喜びがあると思いますが、発達障がい児の場合、なぜ役に立たなければいけないのかという思考になったりする子もいると思います。そもそも「役に立つ」という経験をさせるのは、社会から排除されない一つの方法というか、何か役に立つことがあったら、他の人から排除される対象から外されるためのものと私は考えています。その時に発達障がいの子をどう導いていくかとなると、特性に応じたような、役に立つかどうかは難しいが、本人が繰り返してできることが、他の人に役に立つことにつながるということを見つけていくこととなります。そのためには、個別に細かい設定が必要になってきますが、それが軌道に乗っていけば、自信につながり、いい方向に行くのかなと今考えました。</p>
委員長	<p>ご意見いただきました委員さんは、日本自閉症協会の徳島県支部の会長をしているという立場であって、いろいろな自閉症の方がいるということをご存じであることから今の発言をされたと思いますが、行動障がい著しく、自傷や他害がある子供が人の役に立つということを本人が自覚できるかどうかということがあがるが、人の役に立つということはどういうことなのかを、それぞれの子供によって考えてほしいということですね。</p>

委員	<p>報告書にもあるように、ある委員がおっしゃった『福祉の分野でも「ストレン グス支援」という本人の強みを生かして』という視点がありますが、最終的には ご本人の意思決定につながっていくと思いますし、逆に言えば、意思決定支援を するという場合にどうしていくのかということになります。私の中では、「意思決 定支援＝アセスメント」と思っています。本人の意思を尊重すると言われている が、ご本人のアセスメントができていることが前提での意思決定支援だと考えて います。</p>
委員	<p>それは、通常の学級に在籍する子供たちにも必要な考え方と感じます。それば かりでは集団としてどうかということもあるが、今のような考え方を通常の学 級の子供たちに当てはめて考えていくと、もっと主体性が伸びていくし、特別支 援学級に在籍する子供たちと一緒に学習や活動をしているという感じが出てくる のかなと思います。理想的な話ではあるが、その方向を目指していかなければい けないのかなと思いました。</p> <p>PBSの取組に関する学校長の意識等の話ですが、イベント的なゴールがクロ ーズアップされてきてしまうので、基になる考え方、子供たちの行動をどう見て、 どう評価して、どう賞賛していくかをしっかり勉強していかないとなかなか続か ないと思います。また、指導していても1割、2割の指導にかかってこない子 供への支援をどうしていくかというのも、どこかで教えていただきたいと思いま す。</p>

委員長	<p>いろいろな疑問などがあるわけですが、校長先生は校長先生の生の声、先生方は先生方の生の声をのせているオンライン研修なら、誰でも見ると思いますし、家に帰ってもみたいと思います。オンデマンド配信もしてもらって、内容的には我々の困り感からスタートしているような内容も入れていただけたらありがたいと思います。</p> <p>これまでの全体を通して、また、2回目の委員会に向けてのご意見があればお願いします。</p>
委員	<p>関係機関との連携においては、スクールソーシャルワーカーの存在に助かっています。現在、配置が週に1回ですが、常駐していただけるとありがたい。本当にニーズがあるので、活用したい人が活用できるようにしてほしいと思います。</p>
委員	<p>PBSを続けていくうえで、しっかりと当初のねらいを持ち続けることは難しいところもあるだろうし、PBSを取り入れ始めている学校でも、その考え方や矛盾するような叱り方をしてしまうこともあると思われます。「PBSを取り入れていること」と「文化になっている」ということは、まだまだ違うのかなと思うところがありますので、そこをこれからどうしていくかが大切だと思っています。</p> <p>大変な事例があるところで、PBSのような考え方がないと「指導できていない」と先生が責められることになってしまったり、逆に子どもたちが責められること</p>

	<p>になってしまったりと、誰かが責められてしまう悪循環が起こり、誰かが追い詰められてしまうことが起こりえます。P B Sの文化が根付くと、そんなことは起こらないと思います。大変なケースについては、早めに関係機関とつながることができたら、学校も追い詰められないということにつながっていくと思います。</p>
委員	<p>どうしていいのかわからないところが、このチラシで助けられる人も多いと思います。関係機関とつながってうまくいくことがあれば、それを具体的に事例として示していただけると概要がよりわかりやすくなると思います。</p>
	<p>また、制度的な用語や専門的な用語がすぐにわかるような具体的な説明があれば、ありがたいと思います。</p>
委員	<p>学校、家庭、事業所がうまく連携できれば、教育の参考になったり、うまく支援がつながったりすると思います。福祉の現場でも、計画を作るときに、関わっている関係機関の方に会議に参加してもらおうという場を設けたり、事業所でも個別の支援計画を作るときに関係者の方に集まってもらったりしていますので、機会があれば、学校の先生方にも参加していただいて、意見を聞くことができれば非常に有効ですし、顔の見える関係ができていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>毎回言っていることではあるが、親の会をこの輪の中に入れてほしいと思います。連絡をいただけたら、いつでも困っていることを助けることができるので、</p>

委員長	<p>関係機関としてこういうところもあるということを周知していただけたらありがたいと思います。困っている子供がいて、親も困っていて、誰も幸せにならないところを、誰か一人でも助けてあげたいという気持ちがあります。自分の子供もそういうふうに来てきたし、困っている人を極力なくしたいという気持ちで活動してきたので、ここになくても何かの折に話していただけたらと思います。</p> <p>ご検討いただけたらということですね。</p> <p>最後に委員長としてお願いしたいことは、今日は14項目が示されています。たくさんあっていいのですが、整理できないかなと思います。どういうことかと申しますと、「県レベル」の取り組みとして、従来型の研修会とかホームページを充実するといった内容があるのではないかと思います。次に「学校レベル」として、コンサルテーションや徳島版メンター制度があり、「個人レベル」で、e-ラーニングやオンラインの掲示板があるように思います。その3つのレベルを横軸とします。そして、縦軸を「専門性の向上」、「関係機関との連携」、それと「校内支援体制」としてみますと、きれいなマトリックスができます。その9つのマスの中に、これから取り組んでいく項目を一つ一つ入れていくことができます。そうすることで、「自分がどのレベルで、どの内容に取り組もうとしているのか」ということが全体との関係の中で理解でき、取り組みやすくなると思います。新しい取組を構造化して、「見える化」していただけるようお願いいたします。そして「徳島県の取組は、こういう構造をしています」ということを第2回の会議でお示しい</p>
-----	---

副知事	<p>ただければわかりやすいと思いますし、現場の先生方にもお伝えできたらいいと思います。</p> <p>本日は、委員の皆様のご協力により、充実した会となりましたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、最後に副知事さんより、よろしく願いいたします。</p> <p>いろいろな意見を、いろいろな立場から聞くことができよかったです。</p> <p>いくつかの気づきがあったのでお話しします。</p> <p>最初の「研修会講師」については、「保護者」と記載がありましたが、「当事者」とも併せて記載したらよかったんだろうと思います。</p> <p>また、「あどばいすタイム」もオンデマンドにすれば、多忙な先生方にとって有益なのだと思います。</p> <p>「総合教育センターの特別支援関連のホームページが探しにくい」という意見がありましたが、自分で確認してみると確かに徳島県のホームページにはリンクが付いていませんでした。リンクを貼ることは難しいことではありませんし、すぐできることかなと思います。</p> <p>FAQについては、どうしたらよいかわからないという方向けに、ケースバイケースのため難しい部分もあると思いますが、具体的な事例を載せると有益かと思いました。</p> <p>PBSの記載のところで、「特別支援学級の生徒が」とありますが、時間がなく</p>
-----	--

てこのように書いたと思いますが、本来なら「すべての児童生徒が」と書くべきだと思いました。今実践していただいているPBSも、実は「特別活動の時間」の学習指導要領にしっかり神髓が書かれてあって、特別なことではなくて当たり前のこととして求められているものなのだろうと思いますので、現場において特別なことをしているのではなく、そもそも学習指導要領に書かれてあることだと受け入れていただければ肩の力が抜けるのではないかと思います。

「自閉症のお子さんがどうやって、誰かの役に立つのか」というご意見も心に刺さりました。一方、「学級の中に入れてくれるだけでいい」という考え方もあるのではないかと思います。必ず何かの役に立たないといけないというのではなく、その子の存在がみんなを癒やしてくれるなど、様々な捉え方も可能だと思います。

現場や個人として難しいことがあるかもしれませんが、特別支援教育のみならず、学級運営をどうしていくかということが求められるのではないかと思います。

また、スクールソーシャルワーカーの充実については、予算の課題はありますが、ニーズが高いということを改めて認識しました。もし、現場で支障があったり、意見があったりすれば、次回の委員会の1月を待たずに積極的にどんどん伝えていただいてもよいのではないかと思います。

時々学校を訪問させていただくことがありますが、子供たちが元気に活動している様子は、見ていてとても心が温まります。先生方も日頃のご苦勞はあっても、子供たちの笑顔に救われているんだろうなと思います。

ご多忙の中、ご苦勞が多い中ではありますが、「徳島県はすごいことをやってい

るんだ」という覚悟を持って、今後もよりいい方向に進んでいけたらいいと思います。

ありがとうございました。